5
アタゴオル玉手箱
ますむら ひろし
MOE-SHUPPAN
MOE
コミックス
アタゴオル玉手箱
5
ますむら ひろし
MOE出版
カバー・表紙デザイン
たむら しげる

HIDEYOSHI
in the
Watermelon House

H. Masumura

ATAGOUL

玉手箱メニュウ

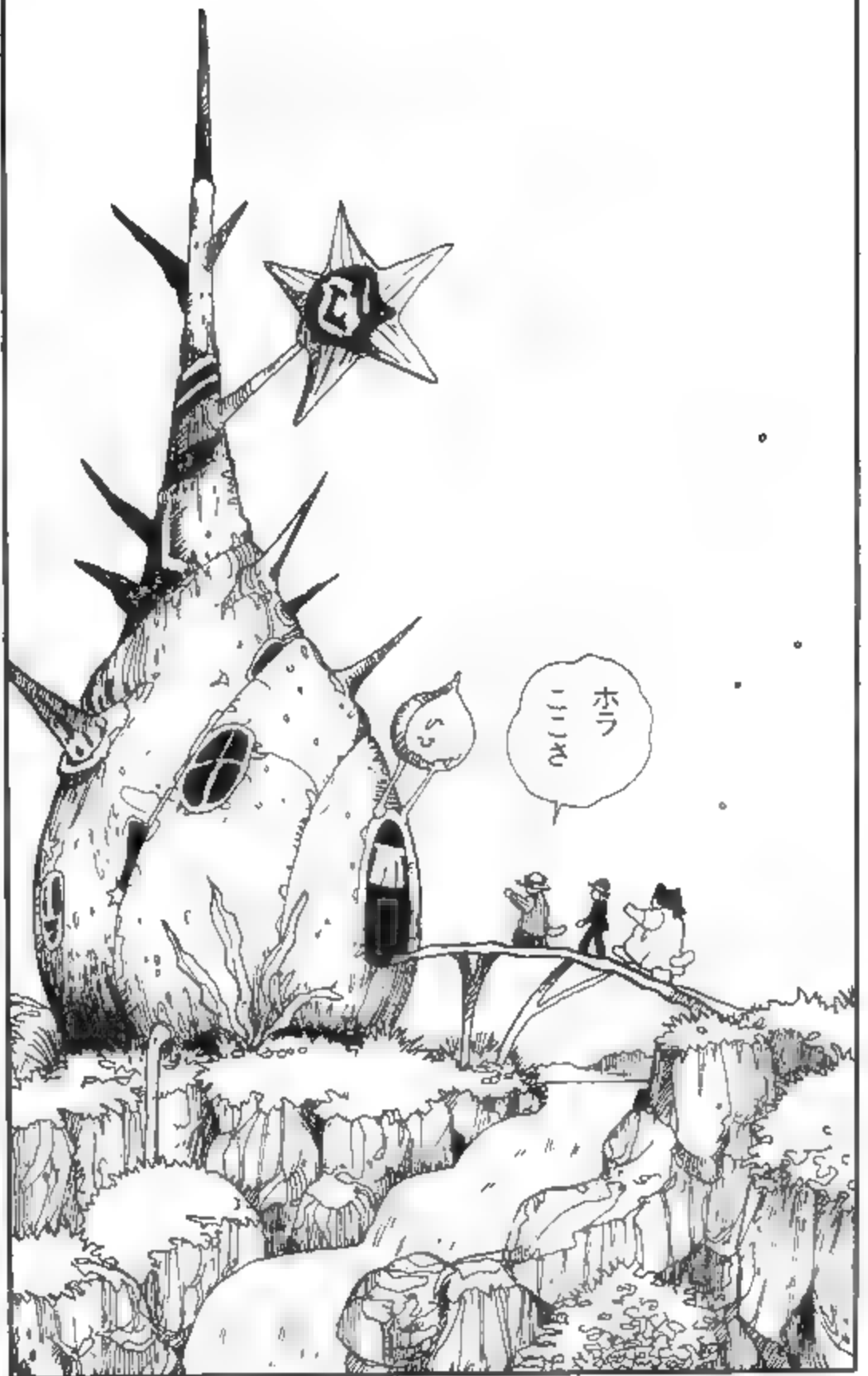
細胞飴

ホラ
ここさ

ホントだ

「大盛ウドン、10杯食ったらタダ…」

オレ好きよ
こういう店！

すごいなあ…
アタゴオルじゃどこの店も、こんな恐しいこと書かないよなあ

ヒデヨシがたちどころに
食いつぶすからな…

おやじ様
ウドンの
10杯食い
やりましゅ
チミー!

ワスの大盛は、すんごいぜ
おとなしく、一杯にしときな

なんのっ
軽いもんだぜ

ぞぞーっ

ゲゲゲ

すごいなあ…
こんな大食らい始めてだ

ヒデヨシの口の奥はどうなってんだろうね
あの世にでもつながってんじゃないか
ぞぞーっ

ホーラ、次っ
もっ…もう14杯だぜ

とりあえず15杯でやめるからね
とりあえず!?

夕方また来るからさ

ハエエッ

あ〜っいい店、
みつかっちゃったなあ
夕方にはきっと
タダ食いの看板
なくなってるよ

みごと
だなっ
ん？

オレはこの島で、
多種の実験学をやってる
トラブシというモノだが
ウドンの食いっぷり
見せてもらったぜ

軽いもんよ
ところで、
あんた、飴
好きかい？

ん〜っ
イカの腹わた飴や、
ナメクジ飴なんか
好物だな

甘い飴は
どうだい？
甘いのも
いいねえ

それじゃあ、わしの作った飴を大量に食べてもらえないかね
お礼は紅マグロ2匹
べべべべべ
博士、おかえりなさい
シオシオッ実験者を見つけたぞ
ねえ、飴はどこにあるの？
あれだよ
飴の田んぼ？

ブクブク ブク
ブク ブク。

ドロドロ してますね
ああ

まだ、結晶液を、ぶち込んでないからね

結晶液!?
そうさ、流し込む時間が大事なんですよね博士!
ブク。

ウム!
いよいよ今夜ぶち込むぞっ

これ、ちょっとなめていい?
どうぞ

ちゅる
甘っ
しかし…
何ゆえこんな広い所で飴を作るんですか？
家の中で作ったのでは何にもなりませんからなあ
トラブシ博士っておかしなもんばかり作るんだよ
それを見るのが私たち、楽しみなのよ
それで今度は何を？
ヒデヨシに飴を食わせる気だぜ
飴？

翌日の昼

はう‥はう
まぐ
まぐ
がんばって食ってくれ
ギュッ

コレうまいけんど
時々ジャリッとするねえ

ういっ

ようし、シオシオ宣伝花火を上げるんだ
はい

トトロ石だよ、だいじょうぶ
オレも実験で、食ったことがあるんだ

ドドッ

ドン
ドン
ドン
なになに…本日の夕方、トラブシ実験屋が「飴の不思議」をお見せします 銅貨2枚、よろしくね!…

飴の不思議?
何んでしょうねっ

夕方
ガヤ
ガヤ

そろそろ、始まるようだな
ヒデヨシ、どこにいるんだろう

さて、諸君 オレの実験発表会に集まってくれて…感謝する!

今回は、オレが作ったこの飴を

あのタルダリ大帝を追っぱらったアタゴオルのナゾノ・ヒデヨシ君に食べてもらった
その数、実に600個

600!
ウソだろう、そんなに食えねえよ
ホラだよ

いーや、ホラじゃねえぞ
あいつは、オレんちのウドン15杯も食ったんだからな

それでは、600個の飴を食った、ヒデヨシ君の登場です。
行くぞっ

とっ

パリパリ

うっ

ハーイ

ウヒャヒャヒャ
くすぐってえよ
プクン
ズズ
ぶっ

あばれる
星腹

あの、飴が…？
オウ／きのうの夜、
飴に結晶液をまいた時…

飴がかたまりながら、
星々のか細い光の位置を
正確に写したのさ

あれん
ニュー

うっ
博士っこれは！

あらら、
飛んでくよ

いったい、
どうしたんだ

ワシが、5個程食った時は
飛んだりしなかったぜ…

すげーっ

きれいだ
なあ

夕ぐれの
銀河だねえ…

その翌日
ああ…

うちにも来たぜっ
ありゃあ
すごいよーっ
しぶといよーっ

まいったなあ…
どうして
こんなことに…
しかし…
あの星座は、
何でできてるん
でしょうねえ

たぶん、飴の
成分のトロ石と
ヒデヨシくんの
細胞…

ヒデヨシの
細胞…

そうか…
…原因は
それですよ…

んっ?
野郎
来たなっ

この盗賊銀河ッ
ガッ

水晶帽子

あーん

あれ…どうしたんだい？

うっ
ペロペロペロ
いたぞ
ウイ…イル…ルル…
おっ…こがらし座だな
この前見た時より大きくなったような……
なんだ…何か言ってるぜ…

言語か……!?
うっ
わっ
スッ
シューーッ
テンプラ、網だっ
網を離せっ
コレハ…使エルゾ
アア…
テンプラーッ

どうか
したんですか

なんだか…胸さわぎが

ドロボーッ
ヒョウタン座よ
ヒョウタン座
ドーッ

ガサ
ガサ
ホホホ

オレは
お星様なのよう

ブヘヘ
これをかぶって
おそっていれば
だーれもオレのせいとは
思わない…

思うよ
ゴゲッ

…はてはて…
どなたかな?

すっとぼけんじゃないよ
島中が盗賊銀河に困っているのに!

ほっ
タクマは木でも切ってなさい

待てコノヤロ
眠り花粉でも、食らえっ

うっ

んっ
シュー

ふあっ
バシッ

あっ
オレの紅マグロ
スーッ

コラッ
ドロボーッ

タクマ
つかまえてくれっ
はてはて…
どなたかな?

何言ってんのよ
オレだぞっ
君の大親友よっ
オイ
テンプラが
銀河にさらわれたぞ

えっ
テンプラも
食われっちまう
ぞーっ

まさか…

オーシ
探しに行こう
トンガリ山の奥に
巣くってるらしいが…
あの山は深いからなあ…

なーに!
オレたちには、
探し物の名人の
娘っ子がいるぜ

しかし…なんで
テンプラがさらわれ
たんだろう…
ああ…
どうせなら
ヒデヨシにして
ほしいよなあ…

そして3日後

も〜っ
3日よ 3日も
山ん中歩いて
まったくツキミ姫も
あてになんないねえ

…この岩よ…

岩!?
ようし
行け
ヒデヨシ
うりゃ
ゴゴ
穴だわ

う〜っここは
迷路じゃねえのかあ
さっきから
同じとこ歩いて
るぜえ

そんなこと、
ないぞ

んっ

らっ

ザリリ
トン
トン

ヒデヨシの姿してるのに
みんな働いてるな…
どうせすぐ魚屋おそっちゃうんだぜ
オ前ノマネハモウ、ヤメタ
オ前ノセイデドロボウバカリシテタンダ
シカモ、体ハ大デブダ
この野郎勝手にオレのかっこうして悪口言うなっ
スグニ怒ルオ前ノ短絡的ナ思考カラ
オレ達ハヌケ出シタノヨ
ヒデヨシが知らない言葉をしゃべってるぜ…
フフフッ
テンプラ君ノカケラヲ食ッタノサ

テンプラ君のカケラ!?
やっぱり紅マグロといっしょにテンプラも食ったなあ
フム
オ前モカケラ食ッタ方ガイインジャナイカ
あれ…
この曲…
どっかで聞いた曲だねーっ
テンプラが作った曲だよ
そーか三日月音頭だ
三日月協奏曲だろう
……しかし、まるでテンプラが吹いてるみたいだなあ……

テンプラのカケラ食ったからな
オッ

やあ 探しに来てくれたのか
なんだあその頭！

トトロ水晶帽子だよ

トトロ水晶の帽子……
…帽子に銀色の熱が集まってるぞ…

ぎんいろのねつ…？

ソノ熱コソテンプラ君ノ脳カラ水晶ニ集マッタモノデ
オレ達ハソノ熱ノカケラヲ食ベタノダ

さては、その水晶
んめーんだろう
ウマクテ食ッテルンジャナイ
オ前ノゲピタ思考カラヌケ出スタメダ

見タマエ
アノ月ヲ…

アノ月ノ色ヲ眺メテイルトオ前ハ
魚屋ノ生イカガ食イタクナルダロウ

うっ
するどいっ

ダガ オレ達ハ
進化シタ

アノ月ヲ見テイルト
銀ハープヲ
吹キタクナル……
ソウダ
目イッパイ
歓迎ショウゼ
オウ

まさに
三日月協奏曲
だなあ…

教えないのに
そっくり吹くんだ
もんなあ…

カケラヲ食ベテ以来
魚屋モオソッテ
イマセンシ、ミンナ
働キ者ニナリマシタ

ちょいと
あんた
あれを
何んと見る!?

ウッ

何ンテコトダ
銀河中央部ハ 今ダニ

ケダモノノママダ

どうして出版してくれないのじゃ
(マキ貝出版)

地熱サンゴの季節はとっくにすぎましたし…
来年でいいんじゃ来年出してくれ
我が心の奥を見つめて書いたこの「枯れ葉舞い舞い節」いけますのじゃっ

いけませんよっこの返本の山!
たしかに初めはサンゴに効きめもありましたが
さすがの地熱サンゴも貴方の文章について行けなくなったのです

ついて行けなくなった…?

意味がわからなすぎるのです
たとえば…この文章…

「ふったらもったらと太った木に散らばるぺしゃくりまくったシワどものよじれ」

…この、ぺしゃくりまくったシワどもって何んのことですか
ホラ、木にはこんな風にシワが散らばってるじゃろう…

それ…シワじゃなくて枝でしょう
えだ！

そーいったマチガイだらけを出版し続けたおかげで我が社は読者に見すてられたのです！
それを出せばもどりますじゃ

私はこれからクラヤモル氏にお会いせせねばいかんのです
お引きとり下さい
クラヤ…？

何んだねそれは？

あんたは未完の名著「月光幻談記」のクラヤモル氏を知らんのか
知らんね ワシが知ってるのは野原文学のスミレ博士だけじゃ
なんてことですか！著書をあげますから、少しは勉強して下さい
べん、きょう…？……
べんきょうって何んだろう…？
フン
ワシが字を読めないのを知らないで…
こんな本をよこしてからにっ
うっ

みごとなタコのさし絵

さては…この本にはタコが出てくるのかな?

くーっ

今の所、もう一回読んでくれーえ
これで最後だぞ!…

すべすべしたその足の吸盤の端をおもいっきりかむと
大ダコの生温かい汁が口の中いっぱいにあふれてきた

たったまらん今夜はタコの生食いじゃっ

う～うっ
もう一回
読んでくれぇ
ここはいいから
先を読もうぜ
オーイ
何を読んでるん
ですかーっ

「月光幻談記」
これ、私
大好きなんですよ
でも…9巻目が出てから
もう2年もたつのに…
10巻目が出ないんですよね
…
ヒデ丸なんかクラヤモル氏に
激励の手紙を何通も
出したんですが…

一説によると…
「書けなくなった」とか…

ええ、その噂は
聞きました!
しかし、彼のような方が
書けなくなるはずは
ありません!
そうじゃ、こんなみごとな
タコ文学は
不滅なのじゃ!

オウオウ
…!
…そう言えば
クラヤモル氏が
この島に来てるらしいぞ

えっ本当か!?
会いたい!
ゼヒお目にかかりたいっ

ほほう…煙文字か…
ありゃあ何んと
書いとるのかね?

「ミイト緯度の指」を
ごぞんじの方、御一報を
毎ユリ宿屋ー

ミイト緯度の指
いったい何んの
ことでしょう!

まったく……
ミイト・イドとか
べんきょうとか
わけのわからん
言葉が多すぎる
ぶつ
ぶつ

※カタツムリ社＝アタゴオルで最も勇気のある出版社。ヒデヨシの本を数冊出し、社の壁はくずれ、見事につぶれた。

おとりこみ中を
失礼！
あっ
この男！
この男のせいで
わが社が
いかれたのです

ワシはアタゴオルの言語学者
ホシノミヤ・スミレ博士じゃが
「ミイト緯度の指」について
深く知っているのじゃよ

えっ
ぜひ中へ！
先生に会って
下さい
ワシの弟子も
ついてきたまえ
おいヒデヨシ

おまえ何をデタラメ
言ってんだよ
クラヤモル氏
に会わせて
あげるのじゃ
ああドキドキ
するなあ

私が
クラヤモル
です
ワシが
ホシノミヤ・スミレ博士
ですじゃ

さっそくですが
博士
ミイト緯度について
話して下され！

あれは長年 調べまわったものでしてホントに……
ホントにホントにホントに苦労の連続だったのじゃ
報酬はたっぷりといたします

ワシは報酬はもらいません
お主の力を貸してもらいたいのじゃ

私でできることならなんなりと!
実はワシは野原文学をやっているのだが…
ワシの作品があまりに高度なために、この島のマキ貝出版が本を出してくれないのじゃ

そこで…お主の御助力でワシの本をだな……

それならたやすいことです
博士の本を出す条件で私が一冊そこに書きおろせばいいのですから

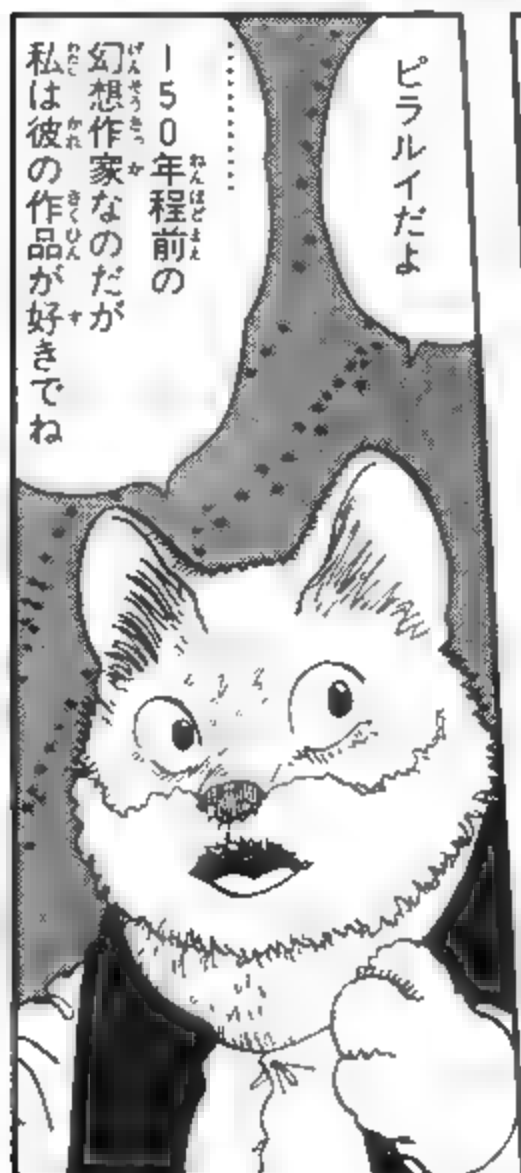
ほほほほっ

それで博士!「ミイト緯度の指」とは、いったい!?

あの言葉を説明するには…満月の夜の水辺が一番なのじゃ
満月は3日後！

しかも深く深く説明するには・・生きのいいさしみとお酒がほしい…
それでは、クラヤモル君！3日後、さしみとともに会おう！
……

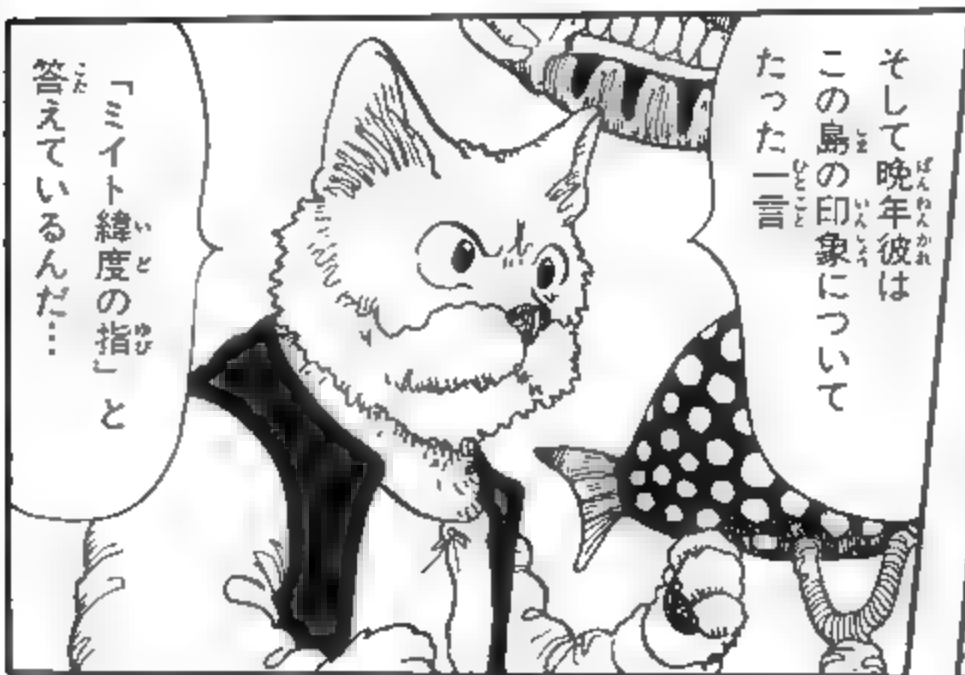
君たち、博士は本当に知ってるのかね
えっ…どうも彼の考えは僕らには理解しにくいので…

あの…う、お聞きしたいのですが
「ミイト緯度の指」という言葉をどこでお知りになったのですか

ピラルイだよ
………150年程前の幻想作家なのだが私は彼の作品が好きでね

初めは、ただの冒険ものを書いていたんだが
ある時期を境に彼の作風はすっかり変わってしまうんだ…

その時期を調べてみるとビラルイはこの島に住んでいたんだよ…

フーム・・

それから彼は書物収集家でもあったのだが
この島を離れたのち…持っていた本をすべて手ばなしているんだ…

ふしぎな話ですねえ…

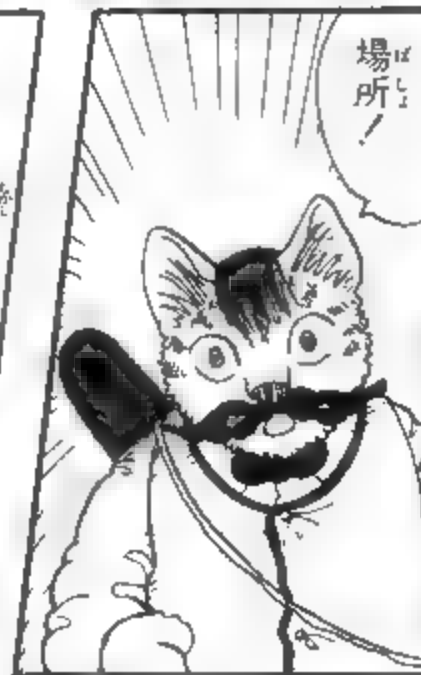
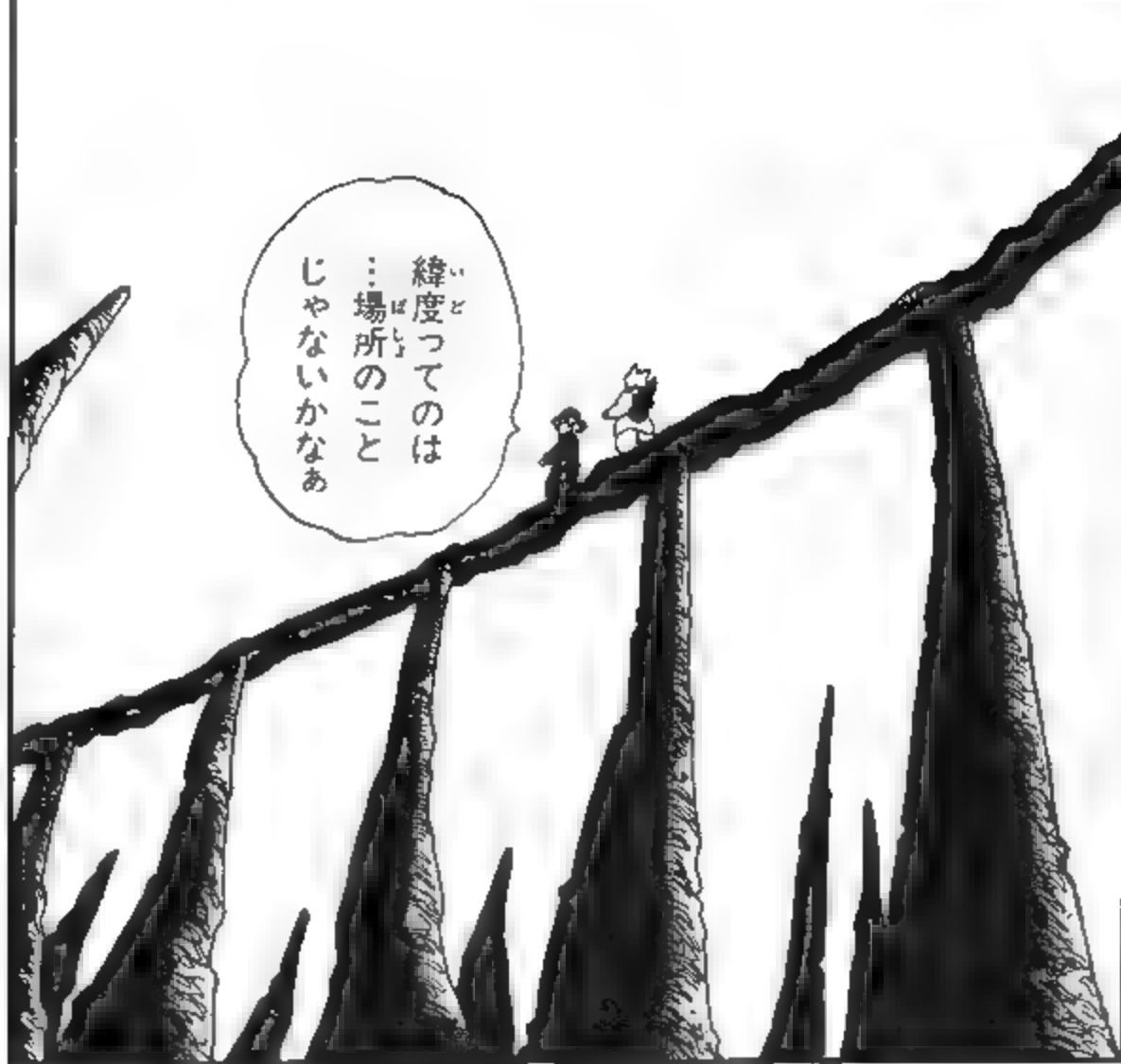
そして晩年彼はこの島の印象についてたった一言
「ミイト緯度の指」と答えているんだ…

ミイト緯度の指…

緯度ってのは
…場所のこと
じゃないかなぁ

場所！
ええ…昔は
緯度とか経度とか
いう言葉で
この星の中での位置を
表したりしたそうですよ

場所か・・
すると問題は
「ミイト」ですなぁ
ええ…
それに「指」

たのむのじゃ
たのみ申すのじゃ

ワシの文学的
運命が
かかっているのじゃ

これ、この通り、
ワシの親友の…
ヒデヨシくんも
たのむじゃっ

姫、解いてくれぇ
言葉を解いてくれぇ

ミイト緯度の指・ねぇ
見当も
つかないなぁ…

ミイト、ミイトって
あんたら
晶磁林山のことを
言ってんじゃねぇのか

えっ
晶磁林山！

ああ…ホラ
あの山さ
オレが子供のころ住んでいた
あの山の山頂近くを
古い地名ではたしか
ミイトっていってたぜ
わぉ
その翌日
チャンチャン
チャカチャカ
あいつ
ハリキッてんなぁ
何をあんなに
背おってるんでしょう
おべんとうにお酒に
お菓子だよーっ
あれっ
何か近づく
気配がするぞ…
え？
あっ…
とっ・
溶けてる！

水晶が溶けてるぞ
うあ

ミイト緯度の指 VOL.2

切手収集家

ザーーッ
くっ
ドッ
ここは危険だっ
下りましょう
ああっ こんな熱い水晶かぶったんじゃ
たまんねえもんなあ
うっ
シューーッ

コラ、何やってんだ
宴じゃよ

流れる水晶をながめつつ、酒を飲む・・・高級学者の好む世界なのだな

焼き猫になっても知らないぞ

風情のわからん奴め…まだまだ子供よのう
じゅっ

冷や酒もいいが・
おっと名案あんこの子

この熱い水晶であったためた熱燗はうまいと見たっ
ぐっ
ピシッ

パコッ

うあっ
酒が

じゅっ
パチパチ

熱ちっ

しいしい
しっぽが火事じゃ
焼き猫
登場

おとなしく
言うことを
聞けばいいのに
オレは一生
きかん猫

しかし よわりました ねえ
これじゃ 山に登るどころじゃ ないなあ
なんのっ この水晶を ブチ割って進むのだっ

そして ミイト緯度の ナゾを解くのじゃ

ドッ
わっ

よし、この穴に入って 行こう
どうせ 行き止まりよっ

みんな 水晶焼きに なるのよ
ホレホレ、また おいてくぞ

う〜っ

なんだか やけに熱いですねえ
あっ

なんだろう
ここ?

いらっしゃい
おや、あんたツルハシ
持っていないのか?
ツルハシ……

ああ、磁雷石を
掘りに来たんだろう
いえ
溶けた水晶の流れに
まきこまれそうなんで
にげてきたんです

えっ、水晶が…
そうか、
どうも熱いと思ったら
晶磁林山が
活動を始めたんだな

活動って噴火すんのか!?
いや あの山は熱い水晶を流すだけさ

ドドッ
うあ
くっそう切手野郎

切手野郎?
ああ、おかしな奴が入ってて火薬石を使うんだ

ない…
ないなあ…

あれ…! あなたは…星街で会った切手屋さん
オッ…オオッ あんたら…ツキミ姫くんにヒデヨシ君!

ひさしぶりだなあ
ええ
ここで何を掘ってるんですか

いやいや切手を探してるんじゃ

切手？

ちょいと、あんた火薬石は禁止だって言っただろう
だいたいこんな所に切手なんかあるわけねーんだよっ
調べたんです

この山の中に3000年前のゴラムル文明の切手がうずめられているという説を…

ゴラムル文明って、たしか銀しぶき海の島々を植物で支配した…
ようオヤジその切手見つけたら
たっぷり飲ましてくれる？

ええ、もちろん
何杯でも
ようし、
決まったぜ

ツキミ姫
切手だ。切手を
探してくれえーっ

…さっきから
切手を意識してるんだけど
像が映ってこないのよ…

たぶん…
このあたりの岩の中に
磁力の強い鉱物が
ふくまれているせい
だな…

フーム…
ツキミ姫の脳は
鉄でできてるのかな

磁力
うん
私の神経は
磁力の影響を
うけるんだ

磁力はきっと磁雷石のせいだよ
磁雷石?

ああ ついて来な
見せてあげよう

石なんか見てる時じゃないわっ
酒盛りよ 酒盛りがかかってるんだから
パッ

ようし
なあ…火薬石はまだあるのか
ええ ありますよ

諸君
これが磁雷石なんだがね・・

この液をかけると…

うっ

わっ
ガキッ

すごい…！

中に入ってる…
銀ハープが反応したんだ

すさまじい鉱石ですなあ
こっちの液で切り離すんです…

あれ
すさまじいといえば…
すさまじい猫はどこへ行ったんだ

なんだかいやな予感

ふせろっ
ふせるのじゃ
どうした
ヒデヨシ
火薬石を
しかけたのさ
全部なっ
えっ
全部
ヒョーッ
うあっ
…みんな…
だいじょうぶか
はあ…

貴様っ、オレたちを殺す気かっ
だーからふせろーって言ったじゃない

まっ
これだけブチ割れば
切手なんか楽に見つかるわよ
その切手があったとしても吹き飛んだり、つぶれたりしてるんじゃないかな
そっ…そんな…

しかし…ヒデヨシ君と一緒にいるのは命がけですなあ
まったくだよ
くそ～っぜんぜんねえぞう

あったり前だ
どっかほかの場所なんだよ！
あれ…

なんだ…あの穴は！

今の爆発であいたようだが…
外にぬけてるみたいだな

んっ

あ～っ

たいへんだぞこれは…

ピッカピッカピッカピッカ
光りまくっちゃってるねい

ゴラムル文明の財宝じゃないかなあ…
とんでもないものを見つけましたねえ

あった

あったぞ

切手だ
黄金切手だ

あら…

この箱にかいてある文字は…

ツキミ姫
何んて書いてあるんだい

「ミイト緯度の指の形…」

ミイト緯度の指 VOL.3

空気の向う

ミイト緯度の指の…形…⁉

んっ…これじゃ開かないな…
鍵ですね…鍵がないと…

くーっ何が入っているんだぁ

なあ、箱はここに置かれていたんだよな…
うん

ここの財宝はその箱を囲むように置いてあるぜ…

ということは
この箱の中に
あるのは
もっとすばらしい…！

フッフッフッ
読めたぜ
箱の中に
あるのは

信じられないくらい
うまーいウニだっ

コイツはワシが
生涯二度と会えない
大馬鹿だな…
よーし
オレが
開けてやるぜ

くっ
バ

うーっ いやっ

フッ
開いたぜ
どうだい
オレの腕はっ
違うよ、ツキミ姫が
開けたんだぞ
いったい
何が入って
るんですか
おいっ
切手じゃないのか
んっ
なんだこれは
ぺっ
箱ばっかり
りっぱでさっ
こんなものしか
入ってねーなんて
……
こうして…
こうか…
フーム
何か暗号の
ような…

どういうこと
なんだろう
…とにかく…ミイトという場所まで行きましょう
なーっ行くのやめようぜ
なんでだよ
こんなに宝物見つけたんだぜ
もーミイト緯度なんかどーでもいーべよう

なんだよ…先まわりして着替えまでして…
ついて来たかったらすなおに来いよなっ
学者の心は複雑なのじゃ

んだなぁ…昔は、このあたりはミイトっていってたらしいがや…

あの…ミイト緯度の指って知りませんか?
はっ?
何んだそりゃ?

いやどうも
……指っていえば…
指石ってのはあるけどなや…

指石！

ホラ…
これだよ
なんじゃあ
これのどーこが
指石なのじゃ
ワシは知らんよ
昔からそう
呼んでるんだから
なや、も～っ

テンプラくんは
何やってんだね
指の形を……
……でも……
何んとも
ないなあ‥

この石
変な光を
放ってるぞ
えっ
かすかだけど…
この方角だ

緯度って
この方角のことを
さしているのでしょうか
んー
どうだろう…？
磁石だと…南北は
この方角じゃないんだけど…

ガサ
ガサ

テンプラくん、これ
ワシの気持ちじゃ
とっといてくれたまえ
ジャラララ
何んだ？
気持ちって…

このナゾを解いたあかつきには
ワシは学会で発表をする
つもりじゃ

だから…ナゾは
すべてワシひとりで解いた
ことにしてくれ…しかもその
ナゾ解きをワシにもわかる
ようによ〜く説明して
くれんかね
何を言ってんだ
おめーはっ

おお…そうか…
宝石がたりないのかっ
やるぞ
もっとやるぞ

いらねえよっ
うあ

バタッ
唐あげ丸さん

あの指の…
指の形を

指の形…!?

うっ

これは…
テンプラくん
何をわめいて
おるのじゃ

指だっ指の形に
曲げてみろっ

たしか…
こう…
いっ痛てて

いっ

おあっ
なんだ、この
糸みたいな奴はっ

ミイトって…
これのこと!
見…糸ってことじゃ
ないのかな

うん!……これ…
糸みたいに見えるけど
空気の
流れだぞ
空気の流れ!

そう…でもいつも私が見てる
空気よりはるかに細かく
くっきり見えてるよ
細かな空気…
あっ…
文字だ
てて、テンプラ
何んて書いて
あるんじゃあ

…弓を持つとオレは
時間の…止まるのを感じる

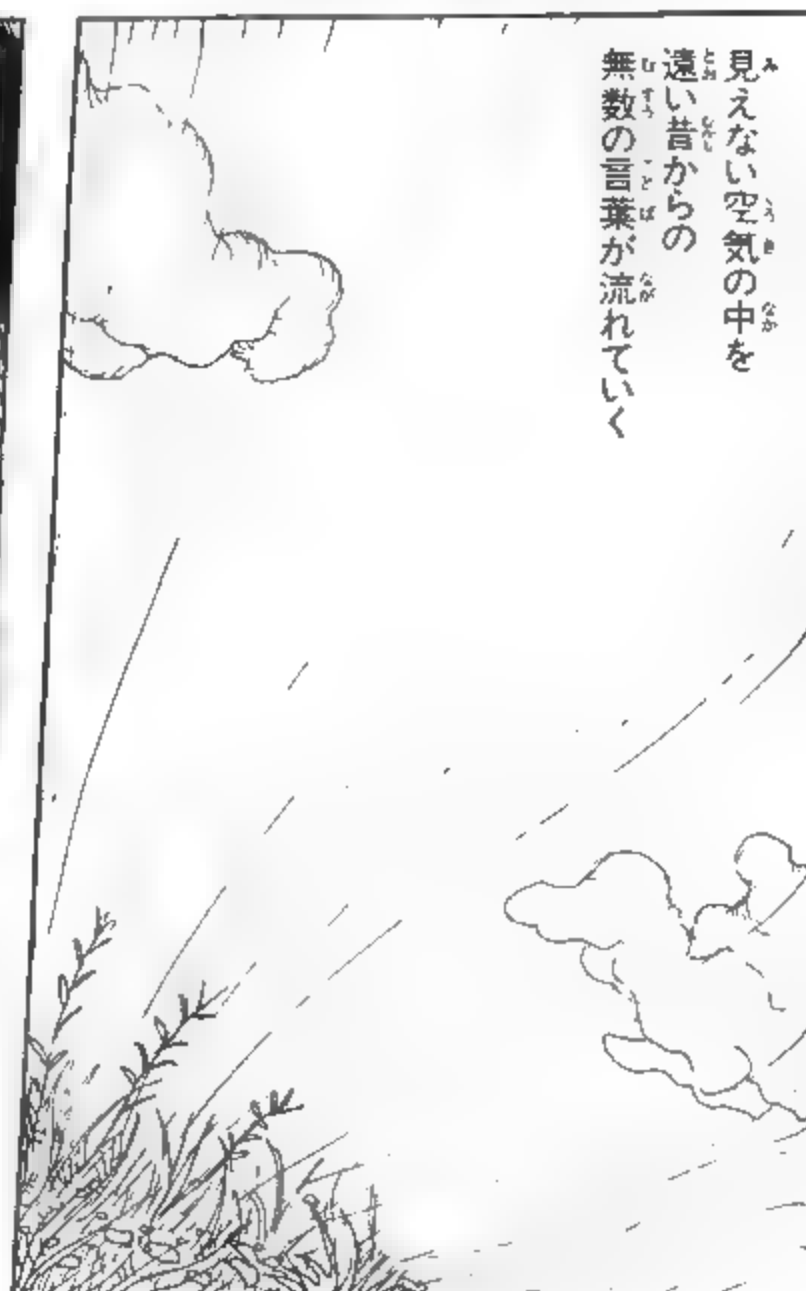
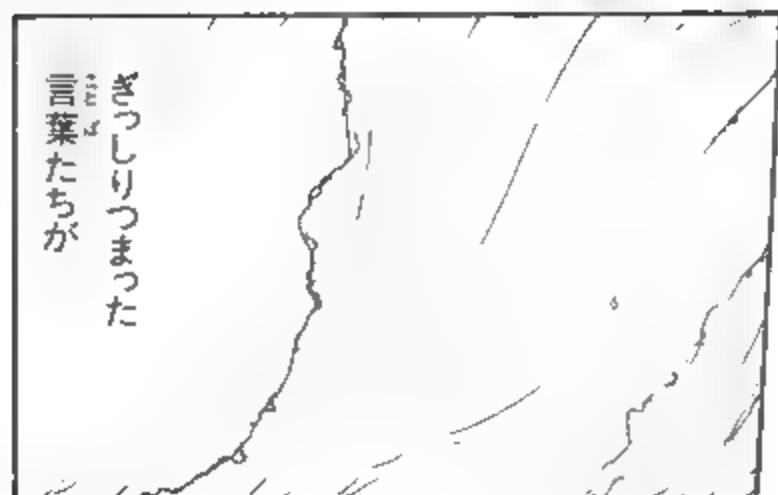
植林島での戦いで…
オレたちが敗れてから…

…悲しみは、雨あがりの水たまりの
ようなものだ…水たまりから反射
してくるのは…

なんじゃ
これは…

！

うあっ

青い靴を落とした
大気の海の中で
植物は海草のように
ゆれ
見えない空気の中を
遠い昔からの
無数の言葉が流れていく
空気は
ゆらゆら動く
透明な本・・
ぎっしりつまった
言葉たちが

大気をさまよっている

MOONLIGHT
QUARTET

うっひゃっ
ひゃっひゃ

宝はみんなーっ
オレのものーっ

たったひとりで、
こんな重いもの…
よく運んで来たなぁ
欲望とは
恐しいもんだ

生イカ食える
ウニ食えるう
死ぬ程なっ
それ、死ぬ程なっ

年中ゴキゲンな男もいれば
唐あげ丸さんみたいに
唐あげ丸さんが
どーかしたの

ああ…冬の終り
なんかになると…

バイオリンの声が
私を馬鹿にしてる

あーっ
バイオリンが心を
開いてくれないいっ

なんだか
大変だねぇ
きのうの
夜中から
ブツブツ始まっ
たんです

よーっ
どうしたんだ?
おう
タクマ

唐あげ丸さんが
ひどく落ちこんで
いるんだ

フーム

火山医者に
行ってみたら
いいんじゃねえか

火山医者!?
ああ、あそこなら
なおるかも
しれないぜ

草ジャンケンで
5連敗したんだから
しょーがないだろう

力まかせに引っぱりゃ
勝てると思っているんだから
甘いよなあ

※草ジャンケン　いなかもんなら一度や二度やったことあるはず。二本の草の茎を引っかけて両方でひっぱって、茎の切れた方が負ける。

いらっしゃい、患者さんがお入りだよーっ

オレじゃ
ないぞ

あの、看てもらいたいのは、
親方なんですが
ああ…こちらは
なんとかなおるでしょう

しかし私としては
ぜひ君を
なおしたい
このやろう
オレは
健康だっ

で…どんな型に
しましょうか?
型…? といいますと…

これが成層型
もともと神経質な方に
向いています。

こっちは
縦状型
神経質といいつつ
無神経な方に
向いています

するとおやかた親方はせいそうがた成層型ですね
じゃ、それで…

先生、火薬粉は、準備完了です

フフッ

離したまーえっ私は森の～っ正しい音楽家

本当になおるのかなぁ…

コラ、管くっつけたらよけいひどくなったぞっ
だまって見ていたまえ

よし、始めよう
さそい熔岩を投下せよ
ハッ

ズッ

ジューッ

あらっ

先生
こりゃあ
かなり複雑な
精神の持ち主だな

ヤブ医者くん
どうしたのさーっ
あーっ
バイオリンが
泣いているっ
いと優しくーっ

ようし…
一番大きいやつを
用意しろ

投下用意
無礼バイオリンめ
私の言葉は
天の声だぞう

投下
ズッ

シューーッ

ズズ
ぐっ

おっ

ビビュッ
噴いたっ
噴いたぞ
あれ…
あの熔岩…!!
うっ
血だっ
キエーッ
ビューー

あっ
あ…あれ…
私は、何んでこんなところに…
オッ
気がついたぞっ
えっ…気がついた!?
そんな…いくらなんでもこんなに早くに!?
おい、クジト!! 神経火薬は、4対2で入れただろうな
えっ
9対1じゃ

馬鹿者 それは
眠り火薬の比率だろう
早く管の栓を
止めるんだ
はい
うあ
早く止めろ
ゲホッ
うわっぷ
そして4日後

医者の野郎
一カ月位でなおるって
いってたけどよ
まったく
ヒドイめに
あっちまったよなあ
オレはヒドイとは
思わないぜ

月があんなに魅惑的に
見えるとは
知らなかったなあ

ああ…じっと見てると
胸がドキドキしてくるよ…

イエーッ
昇ってきたぜ

うう…

いつもなら
こう…こんなに
いい気持ちになると

タイコを
死ぬ程たたきたく
なったのに

すごい灰なんだ
なぁ…
そうよねえ

あー私も
灰をかぶりたかった
なぁ…

今夜の曲は、
去年の冬に作った
水中月光協奏曲か
…

フーム
すばらしい…

まるで私が
4重奏しているようだ

SMELL

ゴリリ

いいニオイだなあ
アタゴオルじゃ見かけない花だぜ

これで金貨1枚になるんだよん
ほんとか!?

全身ウソでかためた体だろう
疑い深いテンプラでも香り屋に行けばわかるぜ

オレがウソを言ったことがあるか?

あれだよーっ

そうさっ
浜辺の伝言林に
これ見つけたら、
金貨くれるって
書いてあったぜ
さあーっ
金貨1枚
くれーっ

それがねえ…
審査しなきゃ
なんねえんだよ

シ・ン・サ・？
…新…砂…？

店に来るお客は、
島の網元が多いんだが
連中の鼻は、なかなか
鋭くてねえ…
それで…
5日に1度、持ちこまれた品物の中で
一番いい香りのした物を、
買うことにしたんだよ…

一番いい香りの
した物…

ああ…きょうのしめ切りまで
持ちこまれたのは
これだけさ

くそーっ
オレのが
一番いい
ニオイだっ
ぜーい

…しかし…
ずいぶん色んな
ビンがありますね…
ああ…
この世界には
無数の香りが
あるんだ…
…自然の中を流れる香りを
味わうというのは…なかなか
楽しいもんだよ

海のニオイひとつとっても
夜明けの海のニオイと
夕ぐれのとでは、
違うんだから…

…よう、おっちゃん、
なんで葉っぱをはっつけるん
だい？
中身が見えると
親方に先入観を
あたえることに
なるからね
セン…ニュウ…カン…？
タコニュウ道の
仲間かな
？
ん

みやおんんん
よろしい！
ピッタリ2時だっ
あっ親方
おうっ
今回は
これだけか
さっそく行こう
やっかましい
オヤジだなあ
では、
始めたまえ
あんなに離れて…
香りがわかるのか
なあ

親方の鼻は
島一番だぜ

ポン
では…まず
これを…

…フーム…
…森尾石か…
鉱石の香りの中じゃなかなかのもんだ

次はこれです

…ほう…サンゴ花の
実か…
おおっ、当ってるぜ
すごい
なあ…

うっ…
次のは、オレがとってきたやつだぜ

お次は…これ
パカッ

おっ
これは波底花の実じゃないか

そ～よ
そ～なのよ～っ

オレがとってきたんだぜ
どうだいこれが一番だろうっ
ウム…！
やっぱり波底花が香りの極地かなあ
………

親方
あと1個あるんですが…

ああ…
開けたまえ

スッ

うっ

何んだ…
この香りは

…こっ…
こんな不思議な
香りを…
味わったことは
ない

かすかに…何んとも
いえず…いいニオイだ

これは何んの香りかね
…中には何んにも入ってないんです…

そっ…それで持って来た者は！

え～と
…サンゴル丘のデブ猫飛行船にいる…パンツ君です

パンツ

コラッオレの花はどうなるんだっ
あれもいい香りだがこれには比べものにならん
残念だが落選じゃ

買ったっこれを買った
もっと買うぞっそのパンツ君の所へ行こう

くそ〜っ
せっかく
持って来た
のに〜っ
パンツの野郎〜

コラッ
パンツ!!

どうした、
ヒデヨシ

お前が変なニオイを
持っていったんで
オレは落っこっちゃっ
たんだぞ〜っ
やあ、ワシは
香り屋の
紙森というもんじゃが

あの香りのもとを
ぜひ買いたい
あれはいったい
何んの香りかね!

それが…オレにも、
よくわからないのです

…時々…この辺を散歩してると…

ただよって来るんですが…

重くて
パクパク
がんばって
下さいよ

…かすかにでも
香りさえすれば…
光で反応するんですよ
へえ…

…しかし、おそいなあ
ヒデヨシの奴…

なにしろ
あの器械は
重いですから
ねえ

あれ…
おっ！
この香りだ

こっちだ
こっちの方角から
ただよって来るぞ
重て〜よ〜っ
いそげっ
ヒデヨシ
は〜っ
紅マグロ
おつかれ
さん！
ザザッ
これだけはっきり、
ただよっていると…
くっきりと
見えてくるぞ
カチッ

ピピッ

うへ
いい音だなーっ

ゲロロロッ
ゲロロッ

これが、
香りの帯か…

おっ

うっ
どういうことなんだ…
この香り

銀河の中心から
流れてくるぞ…

…ああ…

こんな香りのするところが
銀河の中心にあるのか……

……なんとかしてこの香りの正体を調べてみたいものだ……

そりゃあ無理だぜ紅マグロ
よっぽど長い棒でも、あればできるけどさっ

あれ…
風が吹いているのに…
ん!
この香り……
風の影響をうけずに
流れていくぞ
ホントだ
どういう
ことなんだ
ウーム……東に向って
ただよっていくな……

よし、行ってみよう
うっ

うえ
ゲッ

なんだ……このニオイ
くせ～っ

ピーッ
いかん！！香り探知器が

ああ

どーしたのさっ みんなーっ

うっ
それだっ

ヒデヨシ
何吸ってんだ

クサヤの葉巻

馬鹿野郎
早く消せ

ああ…

死ぬかと思った・
まったく……
クサヤの葉巻
なんて……

お前、胃袋も異常だけど肺も異常だなっ
肺・肺

大馬鹿者め

親方……香り探知器、こわれてますよ……
ああ……

かすかな香りに反応するように目盛をあげていたからな……
クサヤの激臭に回路がちぎれてしまったんだ

これじゃ香りの流れていた先を探すのは……むずかしいなあ……

次の日

オーイ、どこ行くんだーっ
「鯨のため息」買いにさーっ

待ってくれ、オレも行くーっ
クサヤ葉巻がもう1本しかないんだあ

コレ、その葉巻を二度とオレの前で吸うなよな!
あら、パンツ、ツキミ姫と同じこと言うわねーっ

お前、ツキミ姫の前で吸ったのか!

オウッ
ネズミトランプしながら吸ったらね

気失っちゃったのよっ

当り前だよ
オレたちゃ煙草吸ってるから肺がきたえてあるけど
あんなニオイまともに吸ったらたまらんぜ

こんちは

クサヤの葉巻入ったかーっ
いや……お客さん

実は、製造元の親方がぜひ、貴方の顔が見たいとさ

オレの顔が見たい？

そりゃあ見たいだろうさ
あんなもの吸う奴はこの世にひとりしかいねえからな

おやじさん「鯨のため息」を三つくれ
ありゃーっあれも切れてるんだ

オレ気に入ってんだけどなー
それじゃあ葉巻の大将といっしょに行きなよ
作ってる所は同じなんだから
えっあんなうまいのと、マズイのを……同じ所で

フーン「ブッカラ煙草堂」か
…そうだ…おじさん…

この香り……知りませんか?

ほう、いい香りだねえ…
でも、こんな香り初めてだなあ
そうですか

ハア…ハア…

おーっここか

親方ーッ来たぞーっ

何んでしょう親方は研究室でいそがしいんですが
オレがクサヤだ

えっ クサヤって
あなたがあの葉巻を吸った方ですか……

あのくさった紅マグロの内臓に一年もつけこんだクサヤの葉巻を……

そうだ!もっとほしい、もっとほしいぞーっ
親方、来ました見るからにスゴイ奴ですぜ

※これはヒデヨンが精いっぱいダジャレを言っている絵である。

ちょーっ
そうだ、濃度の濃いやつだから
けっして他の者がいる時、吸っては
ならんぞ。そばの者が死ぬからな…

吸う方も吸う方だけど…
作る方も作る方だよな

オット・・・
君たちも
クサヤ葉巻かね
いえ、
「鯨のため息」を
買いたいんですが…

「鯨のため息」とは…
ハッカ系の涼しいのが
お好きなんですな
ええ、アタゴオルとも
違っていいですね。

トルルル
親方、
来ましたよ

んっ…
あっ

これは!

あの香りだ

この香りがどうかしたのかね

これ、銀河の中心からここへ流れてくるんですか!

ああ……毎晩のようにな…
オレたち探していたんです!

この香り！
このすばらしい香りは、
いったい何んなのですか

…すばらしい香り……

そうまで言われたのでは…
教えないわけにはいかないね…

……この煙草を、
心を静かにして、
吸ってごらん

スーッ

フーッ

あれ…
味がしないなあ…
香りも
ないし
親方よーっ
なんだ
こりゃあ

おっ
この煙…

まっすぐ
銀河に流れていくぞ

君たちが、すばらしいと
いった香りはな…
オレが若い時に吸った
その煙草の香りさ…

えっ
この煙草

ああ…オレの吸った煙も何んの
香りもせず銀河に流れて行き
こうしてオレの晩年になって
もどって来てるわけさ……

喜びの夜…
悲しみの夜…
オレが経験したいろんな想いの
つみ重なりが……香りとなってな…

一生は……
一本の長い煙草のようなもの

いつの日か
もどってくる
オレの煙は

どんな香りがするんだろう…

初出

●P.13～P.140――「月刊MOE」'87年11月号～'88年5月号（MOE出版）
●P.1、P.2、P.4、P.8――「王様手帳」（アド・サークル）
●P.6――レコードジャケット（「アタゴオル玉手箱」音楽パルジファル　ワーナー・パイオニア）

アタゴオル玉手箱——5

発行　一九八九年五月　一刷
　　　一九八九年五月　二刷

作者　ますむら　ひろし

発行者　榎本司郎

発行所　(株)MOE出版

〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3−5
電話　〇三(二六〇)三三三〇(編集)
　　　〇三(二六六)八六九一(営業)
FAX　〇三(二六〇)一〇四〇

印刷　大日本印刷(株)

製本　大日本印刷(株)

144p.　ISBN4-89594-315-1 C0079

Published by MOE-SHUPPAN, Printed in Japan.